



今年1月、新宿にて。東京都の感染防止ステッカーが看板に

コロナ禍があぶり出した 貧困の現場と労働問題

毎日新聞社会部記者 東海林 智

最前線は非正規まかせ

正規はリモートで危険回避

11月14日(日)、けんせつプラザにて2021年度の「けんせつ」通信員総会が開かれました。その記念講演の講師として招いた毎日新聞社会部記者の東海林智(とつかいりん さとし)さんより、働く人々を苦しめるコロナ禍の厳しい実態が語られました。その講演の一部をご紹介します。(文責・見出し共に編集部)

コロナでリモートワークが広がりましたが、それを行っているのはほとんどが正社員です。非正規労働者は皆、フリーストフェイスの最前線に立たされていました。例えばスーパーのレジ打ちとか、スーパーで働いている人はほぼ非正規ですね。同じ

ようにNTTの料金支払いとかドコモショップの相談窓口とか、その受付で働いている人の多くが派遣や非正規労働者です。ある情報労連の幹部が春闘の時に言っていました、今ストライキをやってもほとんど影響なく仕事は回ってしまつと。お客さんの相手をするのはほぼ非正規、あるいは派遣、下請に置き換えているから、そこは全部スト権とか関係なくなる。だからもう店の営業も全部回っちゃうんだよと。そこまで非正規への置き換えが進んでいるのです。

シフト制という奴隷契約

シフト制という言葉は何となく知っていると思います、一番わかりやすいのは、コンビニのバイトです。これまでのシフト制は一日10時から4時までの6時間で週5回などちゃんと契約書に書いてありました。しかし、今、多くのコンビニや居酒屋のバイトでのシフト制というのは、具体的な時間や日数を労働者が破壊されるというこ



東海林さん

困窮者にお金届かず

コロナ事業で電通ボロ儲け

雇用が破壊されるということは、労働者が労働者でなくなり、労働法の適用を受けない存在になってしまつとということです。雇う方は雇用責任を一切取らない。民間と民間の契約では資本を持たない人は不利な契約を強いられる。これらの人を守るために作られた法律が労働法で、不利な契約を強いられる人は労働者になった訳ですよ。それが、労働者をもつて個人事業主にな



リモートワーク、事務所閉鎖が各所に影響

働契約書に書かずに「シフトによる」の一言で済ませています。同じシフトでも何時間働くのか週何日働くのか全くわからないわけです。でもよくよく考えてください。何日何時間働くかわからない契約、これは、言葉は悪いですが体のいい奴隷契約です。コロナ禍で事業主は、シフトが決まって初めて労働時

請負契約のウーバー

実際は労働者そのもの

リモートワーク同様に爆発的に増えたのが個人請負です。本来、個人請負は人より優れた技術、技能があつて、そのような働き方が成り立つのだと思います。しかし、そういう技能が全くない方々、要するに一般的な労働者である方々が、個人請負として扱

規労働者たちが訴えて、シフト制の問題が明らかにになりました。さらにひどいのは、解雇になったら雇用保険で失業手当をもらえる場合もありますが、クビにもしない。緊急事態が開けたら、また使いたいからです。使う「権利」だけは保持したいという訳です。体のいい奴隷契約だというのは、そういう理由からです。

インフラ老朽化問題」の記事について

けんせつ2370号3面に掲載した「インフラ老朽化問題」の記事について、ガス工事現場従事者の仕事を貶める内容だと読者からご指摘がありました。

記事の主眼は首都圏直下型地震などの震災時に古いガス管のままである都民の安全が守れないのではないかと、その点で東京ガスや自治体ではやるべきことがあるのではないかとという問題提起であり、決して現場従事者を貶めるものではありません。のちの取材で明らかにな

単価切下げ嫌なら契約解消

コロナで仕事が減つたり在宅勤務で余分な時間ができた人がウーバーイーツに目をつけて、荷物を運ぶ人が増えました。人が増えればどうなるか。単価の切り下げです。これまで1つ運んで800円だったのが500円とか300円になって、到着が遅いとク

なるのです。

若年者、女性、高齢者。これが本当に被害を受けているのが今回の特徴です。ヤクルト販売員のシングルマザーを取材しました。託児所があつたりして、シングルマザーが働きやすいという体裁をとっているのですが、ヤクルトの販売員は全員が個人請負です。まさに今回リモートワークで事務所が閉まって、本当に仕事ができなくなつてしまつたわけです。

自殺考えたシングルマザー

自殺を考えたというシングルマザーは借金がかさみ、仕事に出てもお金にならない。

小学生の子供は学校閉鎖、一人で家に置いていくわけにはいかない。学童保育も空いていない。仕事を休まざるを得ず、本当に生活は厳しくなり子供と心中するしかないという追い込まれてしまった。生活が厳しくていつも我慢ばかりさせていたから、最後に大きな商業施設のフードコートで好きなものを食べていいよって言って食べさせて、翌日死ぬつもりだったんですね。子供があんまりにも喜んで美味しそうに食べて、最後にアイスクリームを食べさせてみたら本当に幸せそうな顔していた。それで思い直した。フードコートのわずか1000円の食事を最後にこの子が死ぬのかと。生きなきゃダメだと。一人一人の細やかな日常生活の中には、本当に耐えられないような状況があつたわけです。大変な所にお金が届かない中で、コロナ対策として電通とかがボロ儲けしているのを見ると心底腹が立ちます。社会的に不安定な層は、リーマンショックがあり非正規の派遣労働者が大打撃を受けた2008年から何も変わらない状況で働かれています。日本の不安定な形で働く人々。「非正規をなくす」だの「同一労働同一賃金」、「働き方改革」…。それら与党の労働政策が全て嘘つばちであつたことをコロナ下の状況が教えてくれました。